

1.8 施設・設備（大学・大学院）

【評価項目 13-0-1】 施設・設備等の整備（情報インフラを含む）

- （必須要素）大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
- （必須要素）教育の用に供する情報処理機器などの整備状況
- （選択要素）社会へ開放される施設・設備の整備状況
- （選択要素）記念施設・保存建物の保存・活用の状況
- （必須要素）大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性（大学院）
- （必須要素）大学院専用の施設・設備の整備状況（大学院）
- （選択要素）大学院学生用実習室等の整備状況（大学院）
- （KG1）校地・校舎面積の状況
- （KG2）資産・備品の管理状況
- （KG3）教室の整備・運用状況
- （KG4）視聴覚機器の整備・運用状況
- （KG5）情報処理機器等の整備・運用状況
- （KG6）研究室の整備状況（個人研究室、共同研究室等）
- （KG7）研究所の整備・運用状況
- （KG8）課外活動施設の整備・運用状況
- （KG9）厚生施設の整備・運用状況
- （KG10）体育施設の整備・運用状況
- （KG11）学外施設の整備・運用状況（千刈、立山、戸隠等）
- （KG12）ネットワークシステムの整備状況

【評価項目 13-0-2】 先端的な設備・装置（大学院）

- （選択要素）先端的な教育研究や基盤的研究への装備面の整備の適切性
- （選択要素）先端的研究の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性

【評価項目 13-0-3】 独立研究科の施設・設備等（大学院）

- （選択要素）独立研究科における当該研究科専用の施設等の整備の適切性

【評価項目 13-0-4】 夜間大学院などの施設・設備等（大学院）

- （選択要素）夜間に教育研究指導を行う大学院における施設・設備の利用やサービス提供についての配慮の適切性

【評価項目 13-0-5】 本校以外に拠点を持つ大学院の施設・設備等（大学院）

- （選択要素）本校以外の場所にも拠点を置き、教育研究指導を行う大学院における施設・設備の整備の適切性

【評価項目 13-0-6】 キャンパス・アメニティ等

- （必須要素）キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況
- （必須要素）「学生のための生活の場」の整備状況
- （必須要素）大学周辺「環境」への配慮の状況

【評価項目 13-0-7】 利用上の配慮

- （必須要素）施設・設備面における障害者への配慮の状況
- （選択要素）各施設の利用時間に対する配慮の状況
- （選択要素）キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況

【評価項目 13-0-8】 組織・管理体制

- （必須要素）施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況（大学・大学院）
- （必須要素）施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況
- （必須要素）実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況（大学院）

<2003年度に設定した目標>

施設設備に関する目標設定については、大学のみで決定するのは不可能であり、財政見通しを踏まえた全学的意思決定が必要である。現在、「キャンパス総合開発検討委員会」においてキャンパスのグランドデザインについて検討しているところである。

一般的な目標としては次のような項目が考えられる。

1. 既存教室のAV化及び遠隔授業対応化
2. AV、LL、IT等を配備した教室の増設
3. 研究館の建て替え。そのための代替個人研究室の増設
4. PC教室の増設
5. 大学院学生共同研究室、大学院優先教室の増設
6. レンタルラボの増設
7. 図書保管スペースの確保

(現状の説明)

1. 施設・設備等の整備（情報インフラを含む）

(1) 校地・校舎

西宮上ヶ原・神戸三田の両キャンパスとも、設置基準上必要な校地・校舎面積を大きく上回っており、大学の中長期計画に基づき、計画的に施設・設備の整備・充実に努めてきている。（大学基礎データ表36参照）

西宮上ヶ原キャンパスでは、2004年3月、司法研究科開設、既存大学院研究科の教育研究環境の充実、法人・大学本部機能の整備を目的として大学院1号館、大学院2号館、本部棟を建設した。2004年度には全学共用棟の改修を行い、2005年度開設の経営戦略研究科の教育研究環境を整備した。

大学第二次中長期計画（1997年度～2004年度）の中で大学院専用施設の必要性を挙げており、その計画に基づき2002年度に旧理学部新館を改装したメディア・研究棟に大学院学生共同研究室と大学院専用教室を設置した。また、大学院1号館・大学院2号館・全学共用棟には、大学院学生共同研究室と大学院専用教室をメディア・研究棟から移設および増設した。

独立研究科を除く大学院研究科の施設・設備は、基礎となる学部の施設・設備と共用しているのが基本である。しかし、ここ10年で大学院学生数は倍近く増加している状況であり、各研究科においても各学部棟に大学院教室、大学院共同研究室、大学院控室等のスペースを配置するなど、大学院専用の施設・設備確保に努めている。

校地については、課外活動用地が手狭であった問題を解消するため、新たに西宮上ヶ原キャンパスの隣接土地を2004年5月に取得し、第3フィールドとして野球部、アメリカンフットボール部、馬術部を2006年度に移転する計画である。また、その跡地の活用について、キャンパス総合開発検討委員会において検討している。

また、2000年度に社会人向け学習機会の提供、学外情報発信の拠点として大阪市北区中心部のビル（アプローチタワー）を借用して設置した「K.G.ハブスクエア大阪」

について、2004年9月に経営戦略研究科開設、既存学部・研究科の教育研究設備充実のため借用面積を増やし、大阪梅田キャンパスとして整備した。

(2) 資産・備品

第二次中長期計画（1997年度～2004年度）に基づいて教育研究および課外活動施設設備の整備・充実を進めてきた結果、1997年度から2004年度にかけて本学の固定資産は増加した。

主な資産増加の要因は次のとおりである。

<既存学部・学科等の教育研究環境充実>

1997年度 講義棟F号館建設・備品、経済学部本館改修、新大学図書館建設・備品

1998年度 総合体育館改修、文学部本館改修

1999年度 関西学院会館建設・備品、商学部本館改修

2000年度 神戸三田キャンパスチャペル建設、遠隔会議システム設置

2003年度 本部棟・大学院1号館建設

2004年度 本部棟改修、遠隔授業装置設置、大学図書館マイクロサーバー2号機増設

各年 西宮上ヶ原キャンパスネットワーク整備、教室設備整備

<学科等設置に伴う教育研究環境整備>

1997年度 社会福祉学科開設に伴う社会学部本館改修・備品

1998年度 総合政策研究科開設に伴う備品

2001～2004年度 理工学部・総合政策学部学科再編・増設に伴う神戸三田キャンパス建物建設・備品、司法研究科設置に伴う大学院2号館建設・備品

2004年度 経営戦略研究科設置に伴う全学共用棟改修・備品および大阪梅田キャンパス備品

<課外活動・学生生活>

1997年度 ヨット部艇庫建設

1999年度 外国人留学生寮購入

2000年度 スポーツセンター建設

2002年度 トレーニングセンター建設、硬式テニスコート改修

2004年度 山田町土地購入

<研究関係>

毎年 核磁気共鳴装置等の研究装置

1997年度 ハイテク・リサーチ・センター建設

2003年度 アート・インスティテュート（文部科学省高度化推進事業）設置

(3) 教室

講義室、演習室等の教室の整備状況は、大学基礎データ表37のとおりである。2005年度春学期の教室の稼働率は、西宮上ヶ原キャンパスでは66.0%（2004年度65.8%）で、神戸三田キャンパスにおいては、総合政策学部44.4%（2004年度41.6%）、理工学部43.0%（2004年度45.6%）である。

なお、西宮上ヶ原と神戸三田の両キャンパス間の遠隔授業に対応している教室は2教室ずつである。

(4) 視聴覚機器

ビデオやDVD、PC、プロジェクター等の機器を使用した授業形態が増え、また、これらの機器を使つてのプレゼンテーション能力が学生に求められる中、AV設備の設置が徐々に進んではいるが、本学の教室の多くがマルチメディア活用の新しい授業形態の変化に追いついていないのが現状である。

(5) 情報処理機器

常設のPC教室として、西宮上ヶ原キャンパスで19教室、神戸三田キャンパスで16教室を整備しており、大阪梅田キャンパスにも自習用PCを設置している。また、西宮上ヶ原・神戸三田・大阪梅田の各キャンパスの図書館等の自習エリアにも自習用PCを設置している。これらの常設の約1,800台のPCのほか、貸出用PCを西宮上ヶ原・大阪梅田の両キャンパスで約300台配備している。

なお、各キャンパスの教室には、PCの持ち込み接続に対応している。

(6) 研究室

個人研究室については、大学基礎データ表35のとおり整備している。原則として専任教員1人に1室供与しており、教員1人当たりの平均面積は18.2㎡である。また、客員教員についても研究室を確保している。

また、プロジェクト型共同研究等を推進するため、全学共用棟にレンタルラボを6室設置している。

(7) 研究所

現在、本学には10研究所・センターがあり、それぞれ固有のスペースを有し、設備も整えている。

(8) 課外活動施設

西宮上ヶ原キャンパスには、部室、音楽練習場、武道場、会議室、倉庫等をもつ学生会館（旧館・新館）、洋室・和室、会議室、コンディショニングルーム等をもつスポーツセンター、トレーニングセンターを設置している。この他に、射撃場、自動車部車庫・練習場、洋弓部練習場、馬術部馬場・厩舎、弓道場、グリークラブホール、絵画部アトリエ、茶道部茶室を設けており、学外に航空部格納庫、ヨット部艇庫等を所有している。

神戸三田キャンパスには、部室、会議室、シャワー室、倉庫等をもつ部室棟を設けている。

(9) 厚生施設

西宮上ヶ原キャンパスには学生会館（旧館、新館）、神戸三田キャンパスには厚生棟（第一、第二）があり、関西学院大学生生活協同組合が中心になってさまざまなサービスを提供している。

食堂は、西宮上ヶ原キャンパスの学生会館（旧館約390席）、学生会館（新館約970席）および神戸三田キャンパスの第一厚生棟（約400席）と第二厚生棟（約300席）に設けている。

寄宿舍は、啓明寮（72名）・静修寮（44名）・成全寮（44名）の男子3寮と清風寮（40名）の女子1寮がある。また、男子寮生および下宿生のために食堂・風呂棟を設

けている。

(10) 体育施設

西宮上ヶ原キャンパスには、総合体育館、温水プール（学生会館新館地下）、第1フィールド（野球、アメリカンフットボール）、第2フィールド（陸上競技、ラグビー、野球）、サッカー場、硬式テニスコート、ソフトテニスコート、ホッケーグラウンド等がある。

神戸三田キャンパスには、体育館、第二種公認陸上競技場、ゴルフ練習場、アーチェリー場、テニスコート、第1グラウンド、第2グラウンド、第3グラウンドがある。

これらの施設は、全学開講科目であるスポーツ科学・健康科学科目の各種演習や課外活動に利用するとともに、社会的活動等に開放している。

(11) 学外施設

学外施設として千刈セミナーハウス、千刈キャンプ、立山山小屋、戸隠山小屋、張記念館がある。

名称	所在地	土地総面積	建物総面積
千刈セミナーハウス	兵庫県三田市	93,741.7㎡	3,933.6㎡
千刈キャンプ	兵庫県三田市	82,913.0㎡	4,709.2㎡
立山山小屋	富山県中新川郡	1,185.0㎡	127.8㎡
戸隠山小屋	長野県長野市	3,304.8㎡	201.1㎡
張記念館	兵庫県西宮市	893.4㎡	159.9㎡

千刈セミナーハウスは、1978年に開設されたが、老朽化が進み、利用客が減少しており、2005年10月で閉館することを決定している。

千刈キャンプは、1955年に開設され、1984年にはキャンプセンターが開設されて学内外の利用を得ている。20名前後の学生リーダーがボランティアとして運営に関わっている。

立山山小屋は、1964年に開設され、毎年7月20日頃から9月末頃まで開いている。建物の老朽化が進んできており、年間の利用者数は過去5年間95人程度で推移している。

戸隠山小屋は、1962年に体育会ワンダーフォーゲル部が建設、活動拠点としていたが、1972年以降は、本学管理の教育施設となった。築後40年以上が経過、建物の老朽化が進んできている。年間の利用者数は、過去5年間90人程度で推移している。

張記念館は、1975年に音楽学普及のための施設として、土地の一部および建物の寄贈を受け、教育施設として活用してきた。2003年度に改修工事を行い、文部科学省高度化推進事業であるアート・インスティテュートの研究施設として活用している。

(12) ネットワークシステム

キャンパス内の大半の建物はギガビットネットワークで基幹網に接続されており、基幹機器については二重化あるいは接続経路の分散等を考慮し設計されている。一部教室は無線LAN対応とし、貸出PCを利用することによって、PC教室と同様にネットワークを利用できる教室を増やした。大学院1号館および2号館は、教室のすべての座席におよそ800の情報コンセントを設け、貸出PC、持込PCを学内ネットワークに容易

に接続できる環境を整えている。

神戸三田キャンパスは、1999年度に光ファイバ網を整備し、主要校舎はギガビットネットワークで構成されている。3号館・4号館の教室を中心に約2,000の情報コンセントを設置し、持込PCの学内ネットワークへの接続を容易に行えるようにしている。無線LANへの対応については、キャンパスの一部にアクセスポイントを設置し、無線LANカードを貸出することによって、個人所有のPCを接続可能にしている。

大阪梅田キャンパスは、2005年度の経営戦略研究科開設に合わせ、2004年度にキャンパスのネットワーク整備を実施した。キャンパス内の一部エリアは無線LAN対応とし、それ以外の教室については、各座席に情報コンセントを設けて、持込PCの接続環境を整えている。また、社会人学生が多いことを考慮し、公衆無線LANサービスであるホットスポットエリアを設けた。

セキュリティ対策として、ファイアウォール・不正侵入検知システム・脆弱性検査システムを導入し、外部からの不正侵入対策を施すとともに、ウイルス対策ソフトをライセンス契約し、メールシステム上での対策と、各クライアントでの対策を行っている。

ネットワークシステムのインフラとしての重要性を考慮し、基幹機器および主要構成機器については、24時間365日のネットワーク監視を実施している。

2. 先端的な設備・装置

21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」のための専用の研究室2室（計87㎡）を全学共用棟に確保するとともに、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業に採択されている10の各研究センターには、優先的に装置・設備を配置している。

3. 独立研究科の施設・設備等

独立研究科の言語コミュニケーション文化研究科には第4別館、司法研究科（ロースクール）には大学院2号館、経営戦略研究科経営戦略専攻（ビジネススクール）、会計専門職専攻（アカウンティングスクール）には全学共用棟および大阪梅田キャンパスを、専用棟並びにスペースとして充てている。それぞれの施設には学部棟に相応する設備を整備している。

4. 夜間大学院などの施設・設備等

昼夜開講制をとっている研究科は、11研究科のうち文学研究科教育学専攻学校教育学コース、法学研究科エキスパートコース公共政策プログラム、経済学研究科エコノミスト・コース、商学研究科マネジメントコース（2005年度まで）、総合政策研究科（博士課程前期課程）、言語コミュニケーション文化研究科（博士課程前期課程）、経営戦略研究科の7研究科である。

大阪梅田キャンパスでは全教室（午後9時30分まで）、西宮上ヶ原キャンパスでは、主に大学院1号館の教室（午後9時まで）を使用している。神戸三田キャンパスでは特に建物や教室は指定していないが、届出により午後9時まで使用できる。その他、夜間授業に西宮市の施設である西宮市大学交流センター（午後9時まで）を使用している。なお、大学図書館は最終授業終了の1時間後（午後10時）まで開館し、利用できるようにして

いる。

5. 本校以外に拠点を持つ大学院の施設・設備等

本学では、2005年度に開設された専門職大学院である経営戦略研究科の経営戦略専攻（ビジネススクール）が大阪梅田キャンパスを本拠地としている。

2000年から大阪梅田にあるアプローズタワー13階に昼夜開講制授業に対応できるサテライトキャンパスとして「K.G.ハブスクエア大阪」を開設していたが、経営戦略研究科設置に伴い、2004年10月、「K.Gハブスクエア大阪」をアプローズタワー14階に移設・拡充し、大阪梅田キャンパスとして整備した。

大阪梅田キャンパスの総面積は、トイレ、エレベータホール等共用部分を除いて1,218.3㎡で、教室7室、経営戦略研究科共同研究室、経営戦略研究科図書資料室、多目的室、講師控室、PCコーナー、ラウンジ、ミーティングルーム、記者控室、事務室を備えている。

6. キャンパス・アメニティ等

(1) 1929年に完成した西宮上ヶ原キャンパスは、米国人建築家のW.M.ヴォーリズの設計による。甲山、時計台、中央芝生、正門を結ぶ直線の左右にスパニッシュ・ミッションスタイルの建築群が対比的に配置され、キャンパスには約200種に及ぶ樹々が生育し、自然と調和した国内有数の美しさを誇る。1995年に開設された神戸三田キャンパスも豊かな自然に囲まれた中でスパニッシュ・ミッションスタイルに統一するなど西宮上ヶ原キャンパスの伝統を継承している。学生はこうした本学院固有のキャンパス思想に基づいた宗教的・文化的な空気に包まれて学生生活を過ごす。

このキャンパスのアメニティを維持するために、総務課、施設課が中心になって学生部、総合体育館等と連携しながら管理を行っている。

(2) よりよい学生生活をサポートするため、①学内の所定の位置にベンチを設置、②ゴミの分別回収に対応したゴミ箱を設置、③建物内禁煙に伴う喫煙場所の確保（灰皿の設置）、等を進めてきた。関西学院大学生協とも連携して、①弁当等の販売場所の拡大、②休日の食堂利用（学生会館開館時）、③デポジット方式による空き缶・ペットボトルの回収、等を行っている。

(3) 西宮上ヶ原キャンパスは一般住宅と隣接しているため、グラウンドの砂埃等の問題や自動車・バイク・自転車による通学とその駐車・駐輪場所の問題等を抱えている。近隣住民とのグラウンド問題については、総務課が施設部、総合体育館と連携して対応している。自動車・バイク問題については、学生部を中心に検討を進めている。駐輪場を増設するとともに、「自動車通学禁止・バイク通学自粛キャンペーン」を1986年度から実施し、併せてたばこのポイ捨てなどへの自省を促す「学生マナー向上キャンペーン」を2002年度から実施している。

なお、西宮上ヶ原キャンパスは、災害時における近隣住民の避難場所に西宮市から指定されている。

7. 利用上の配慮

(1) 身体障がい学生への配慮として、身体障がい者の移動の安全を確保するため、約40台の昇降設備（エレベーター）、建物内および通路に点字案内、点字ブロックを設置

し、危険個所には柵、カバーを設けている。また、車椅子の利用者、聴覚障がい者のためにも教室を整備している。また、障害学生支援連絡会、障害学生支援実務連絡会を設け、障がいのある学生のためにさまざまな施策を検討、実施している。

(2) 施設利用については、西宮上ヶ原キャンパス大学図書館と神戸三田キャンパス図書メディア館は午後10時まで利用することができ、授業のある期間の日曜日や夏季休暇中の土曜日でも利用できる体制をとっている。また、大学院学生共同研究室等は午後11時までカード方式の入館体制をとっている。

(3) 西宮上ヶ原と神戸三田の2キャンパス間を結ぶシャトルバスを有料で運行し、授業や課外活動のために便宜を図っている。

8. 組織・管理体制

(1) 維持・管理の責任体制

施設設備等の管理体制については、施設部、総務課、財務課、情報システム室をはじめ各部課が関連諸規程に基づいて建物、備品・用品、情報関連設備の適切な維持・管理を行っている。

例えば施設・設備等の使用管理は、それぞれの部課で行い、情報関係設備（LAN・AV含む）については情報システム室を中心に管理している。これ以外の施設（建築）・機械設備・電気設備・上下水設備・昇降設備などの維持管理は施設部の責任で行っており、施設（建築）の維持管理は必要に応じて内外壁塗装・防水工事等を行い、設備機器等の多くは外部業者と委託契約を締結して維持管理している。

(2) 衛生・安全を確保するためのシステム

現在、西宮上ヶ原キャンパスは全給水量の約70%を井戸水（2本）で賄っているが、内1本の水質が悪化傾向にある。また、もう1本の井戸も水質は安定しているものの、鉄分等多いため、それぞれで浄化处理して学内に供給している。これらの井戸水供給システムは専用水道施設に指定されているため、保健所の監督のもと、水質管理は外部専門業者に維持管理業務を委託し、徹底した衛生管理を行っている。なお、西宮上ヶ原キャンパスの食堂部門および神戸三田キャンパスは公共水道を利用しているため、衛生上の大きな問題はないが、受水槽等の点検・清掃は厳格に実施している。

キャンパス内の安全を確保するため、正門守衛・夜警・巡回業務を業者委託している。日中の正門守衛業務、キャンパス各所の開閉門に伴う巡回業務の他、夜間も守衛室に常駐し、緊急時の初期対応を委託している。なお、開門時間は平日・土曜は午前7時、日曜・祝日は午前9時、閉門時間は平日午後9時、土曜・日曜・祝日は午後7時である。

清掃については、嘱託職員、アルバイト職員、委託業者等によって実施されている。建物の開閉並びに教室、廊下、トイレ等建物内の清掃を行っている。

建設工事の際には、総務部長のもとに安全委員会が開催され、工事中の安全対策が検討される。

（点検・評価の結果）

1. 施設・設備等の整備

(1) 校地・校舎

設置基準上必要な面積を大きく上回っており、問題点はない。

(2) 資産・備品

大学の中長期計画に基づき、計画的に整備・充実に努めており、問題点はない。

(3) 教室

教室の稼働率は70%を下回っているが、これは授業や履修者数と適合しない教室を割り当てている場合があるためである。今後は、少人数教育や言語教育における習熟度別教育に対応できるよう、規模別の教室数の見直しが必要である。また、遠隔授業に対応できる教室の拡充が必要である。

(4) 視聴覚機器

講義棟間で教育設備にかなりの格差が生じており、マルチメディア活用の授業形態への対応が遅れている。早急な設備充実が必要である。

(5) 情報処理機器

約2,100台のPCを設置しており、在籍学生数比率で見ると、10人に1台程度となっている。これを十分と見るか、不十分と見るかは見解の分かれるところであるが、情報教育の充実をさらに図るためには、今後、いっそうPC教室の拡充を図り、PCの台数を拡大していく必要はある。

(6) 研究室

教授研究館には、狭隘で老朽化が進んでいる研究室もあり、新たな研究室の増設が必要である。また、レンタルラボが少なく、増設の検討が必要である。

(7) 研究所

それぞれ固有のスペースを有し、設備も整えており、特に問題はない。

(8) 課外活動施設

西宮上ヶ原キャンパスのグラウンドは、昔からの土のグラウンドでケガ等も多く、最近の公式試合は人工芝や天然芝がほとんどであるため、改修についての検討が必要である。

学生会館旧館は、築後46年が経過して老朽化が激しく、建て替えの検討が必要である。

また、神戸三田キャンパスは、文化活動を行うことができる専用の施設が無いとため、学生会館（大学会館）等の建設が必要である。

(9) 厚生施設

女子寮である清風寮は築40年を超え、建物の老朽化が激しさを増しており、また女子学生比率が4割を超えるという状況から、新築や増築を検討する必要がある。

神戸三田キャンパスには現在学生寮はないため、新築について検討する必要がある。

食堂は、昼食時は大変混雑し、座席数が足りない状況である。対応策の検討が必要である。

(10) 体育施設

西宮上ヶ原・神戸三田の両キャンパスの体育施設については、特に問題はない。

(11) 学外施設

千刈セミナーハウス閉館後の施設等の利活用の検討が必要である。

(12) ネットワークシステム

2004年度までに、西宮上ヶ原キャンパスの2校舎を除き、物理的な整備はほぼ完了

している。今後はインフラとしてのネットワークを更に有効活用していく段階を迎えている。

インフラとしては安定稼動が必須条件であるが、2003年度から開始した24時間365日体制のネットワーク監視が功を奏している。ネットワークサーバ・機器・回線のダウン時には、導入機器ベンダーおよび担当者への連絡が即時に行われ、早急な復旧対応が可能となった。

一方、ネットワークシステムの整備として、学内ネットワーク・インターネット接続の強化を行ってきたが、同時にネットワークの普及に伴い、セキュリティ面への配慮を重要視し、他大学に先駆け、2001年度に情報セキュリティポリシーを策定し、ネットワークを利用する上でも大学全体でセキュリティへの意識付けを推し進めている。

持込PCの接続環境の整備については、ネットワーク利用のためにユーザ認証を必須としていることから、従来は、有線LANでは独自ソフトのインストール、無線LANでは、特定ベンダーのLANカードを必要とする認証方式を採用してきており、ユーザが利用する上での制約が非常に大きかった。しかし、2004年度から新たな認証方式への対応・検証を実施し、ネットワーク利用の記録を確実に採取するとともに、個人所有のPCの設定を行うだけで学内ネットワークへ容易に接続できる環境を整えることができた。

2. 大学院関連

施設・設備については、大学院学生共同研究室内の学生自習席が不足しており、その対応が喫緊の課題である。

先端的な設備・装置、独立研究科の施設・設備、昼夜開講制授業への対応、本校以外に拠点を持つ研究科の施設・設備、組織・管理体制については、特に大きな問題はない。

3. キャンパス・アメニティ等

学生の意識向上と協力により、ゴミの分別回収や所定の場所での喫煙等、成果が見られる。また、自動車通学および違法駐車の問題については、巡回警備等の成果もあって改善されている。一方、バイク・自転車によって通学する学生が急増しており、駐輪場が不足傾向にある。

環境配慮促進法への対応の検討が必要である。

4. 利用上の配慮

障がいのある学生に対する施設・設備の配慮については、新築棟については十分に配慮されており、戦前からの建物においてもできるだけ整備を行っている。キャンパス内の通路に敷設する点字ブロックについては、現在、拠点方式を現在とっているが、全面誘導方式への移行が検討されている。

施設の利用時間について、24時間利用の考え方もあり、一部、実験系では実施されているが、郊外型である本学の立地条件や安全性等を踏まえ、現在は最長午後11時までの利用で十分である。

神戸三田キャンパスへのアクセスについて、公共交通機関（バス）の拡充は現状では求められない。神戸三田キャンパスの学生数の拡大を図った上で交渉することは可能である。シャトルバスは、学生の利用状況を見ながら運行方法の工夫を施している。

5. 組織・管理体制

近年のキャンパス再開発に際し、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスそれぞれで集中管理システムの構築に取り組んでいる。機器の異常時はできる限り即応体制で対処している。

既存の昇降設備については、日常点検を専門業者に業務委託するとともに、閉じこめ等の場合でも、すぐに連絡できるよう万全の体制をとっている。

(改善の具体的方策)

施設設備面の課題としては、教室不足への対応、教室のAV化および遠隔授業への対応化、情報システムの改革、老朽化した研究室への対応、レンタルラボの確保、老朽化した学生寮の建て替え、第3フィールドの整備等、多数に及んでいる。

これらの改善の具体的方策として、現在、キャンパス総合開発検討委員会において西宮上ヶ原キャンパスおよび神戸三田キャンパスを含めたキャンパスグランドデザインについて検討中であり、2008年度を目標に拡充・整備を図っている。特に、大学院学生共同研究室（学生自習席を含む）の拡充の一環として、2006年度から2年間、時計台2階に大学院学生共同研究室を増設し自習席の増設を行う。

情報処理機器関連では、盗聴対策等セキュリティ面での検証を十分に行い、教室への情報コンセントの設置もしくは無線LANの配備を進める。

ネットワークシステムとしては、本学の情報基盤環境を2007年度中の完成を目標に整備を進めている。また、無線LAN環境の整備も2006年度以降展開予定である。

持込PCの接続環境については、認証方式の統一を図り、IP電話網の構築によってコストダウンを目指す。